



校長会

みえ

No.36

三重県小中学校長会 広報 第36号

●発行●三重県小中学校長会 津市桜橋2-142 三重県教育文化会館内 TEL 059-227-7011 E-mail mie-kotyokai@galaxy.ocn.ne.jp
●編集●三重県小中学校長会 広報委員会 ●印刷●光出版印刷株式会社 松阪市久保町 1885-1 TEL 0598-29-1234



私の学校づくり



保護者・地域とともに

津市立上野小学校

校長 宮本 隆

思い出の地に再び赴任して

四月、初任で七年間勤務した本校に、二十七年ぶりに赴任することができました。校門をくぐる、満開の桜の木や校舎前の大松が、当時と全く変わらぬ姿で私を迎えてくれました。その一方で、国道沿いにいくつもできた大型店舗や、通学路を通勤の車がひっきりなしに通る様子を目の当たりにして、時代の流れを痛感するとともに、子どもたちの安全面、健全育成面では、細かく気を配っている必要があると思いました。

保護者・地域と連携した花街道

家庭や地域が、子どもたちに様々な体験を積ませる機会が少なくなってきた昨今、本校では平成三年度から子どもたちが種から育てたパンジーの苗を、上野街道（旧参宮街道）沿いの家々に届けて育ててもらおう「花街道」の取組を、保護者や地域の関係団体と連携して行っています。今年も、二十三年目を迎え、老人会や健全育成協議会等の皆さんに指導して

いただいた、九月から三カ月かけて育てたプランター三百個分のパンジーの苗を、保護者の方に手伝ってもらいながら、子どもたちの手で、一軒一軒配り歩きました。

子ども支援ネットワークの構築

現在、本校には様々な社会状況の変化等から厳しい経済状況の中で生活している子や、基礎学力の定着に対して厳しい状況にある子など、多くの課題を抱えながら生活している子どもたちがいます。また、そのことから自尊心が低い子どもたちもいます。それらの課題に向き合い、解決を図っていくために、今年度から学校・家庭・地域・各種団体が連携した、子ども支援ネットワークの構築に向けた取組をスタートさせました。ただほんの緒に就いたばかりですが、今後、地道な取組を積み重ねていく中で、子どもたちの自尊心を高めるとともに、学習意欲の向上を図っていきたいと考えています。

今日的課題の克服に向けて

みんな大好き もちろん 自分も大好き

伊賀市立府中小学校
校長 米田 美紀子



「あなたは自分のことが好きですか？」と聞かれると私はいつでも「大好きです」と答えます。嘘でも強がりでもなく本当にそう思っているからです。自分の得意なところももちろん好きですが、できない格好悪いところも可愛く思えて大好きです。自分がこう思っているのだから、他の人も同じように自分のことを好きなんだと思っていました。しかし「なぜそんなにいつも元気で前向きなんですか。なぜそんなに自分のことが好きなんですか」と聞かれるた

びにそうじゃない人がいる、とかそうじゃない人が多いんだというのを再認識します。

大人たちがそうであるように、自尊心がもてずに不安な気持ちを持ちながら、毎日登校している子どもたちもいます。

そこで、子どもたちが自分に自信をもち、毎朝今日一日生き生きと過ごしたいと願い、わくわくしながら登校できるように、そして、学校で子どもたちの笑顔が輝き続けられるようにいくつかのことを試みています。

まずは子どもたちの思いを学校生活についてのアンケート（各学期に一回）の中で「自分のことが好きですか」という問いに対しての結果で分析をしています。それは数字だけではなく、なぜ自分のことが好きになれないのかという理由もいっしょに追究しています。その結果を全校集会で何度か子どもたちに話をしました。そして、全校集会の中で【いいこと見つけ】というコーナーを作りました。学

級の中でも【いいこと見つけ】をしているので、全校集会では自分の学級・学年以外の子のことを発表しています。

一年生の子が「六年生の〇〇さんが休み時間にいっしょに遊ぼうと言って遊んでくれました」と言うと、六年生の子が「いっしょに遊んで楽しかったよ。またいっしょに遊ぼう」と返してくれます。その話を聞いている他の子どもたちもほっこりという顔をしています。自分の名前を言われた子のうれいとも、恥ずかしいとも感じられる顔を見るのがとても楽しみです。大好きです。

各学級の取組の中では、朝の会や帰りの会、各教科の中でできるだけ自分の思いを出し合える機会をたくさんもっています。これは今までも取り組んできたことです。が、話すことがなかなかまとまらなかったり、思いを十分伝えられなかったりしていたので、【スリーポイントクス】と題して話すことの要点を三点にしばって単語で書かせ、それをふくらませて話すという方法を実践しています。はじめはあまりふくらませられなかった子も、回を重ねるごとに少しずつたつぷりと話せるようになってき

ました。そして大勢の前で話すことが得意になり、話すことが好きになってきた子も増えてきました。

人間というのは不思議なもので、ひとつのことに自信をもつと次々挑戦していきます。失敗しても再度挑戦する力も心も備わってきます。アンケートにも結果が表れてきました。今、学力、いじめ等いろいろな課題が山積しています。それらの課題もそれぞれが自尊心を強く持ち、自信をもつて自分から活動する喜びを感じることから、少しずつ解決していくのではないのでしょうか。

地域、学校、友だち、家族大好き。そして、自分大好き！

コミュニティ・スクール 開設に向けて

尾鷲市立尾鷲小学校
校長 谷 良 純



昨年四月、尾鷲市教育ビジョンが策定されました。基本理念は

『次代を創る“おわせ人”づくり』市民との共創のもと、地域の（ひと・もの・こと）を最大限活用しながら、学校づくり・地域づくりをすすめていこうとするもので、市内の各学校・園ではそれぞれ特色を生かした取組が進められています。

その中で本校は、「コミュニティ・スクール研究推進校」の指定を受け、平成二十七年開設に向けて実践研究に取り組んでいます。

【研究課題】次の二点です。

○保護者・地域住民等と学校とが、お互いのニーズや要望を共有し、学校運営や教育活動に反映させる方策の検討。

○学校運営協議会が核となった学校支援ボランティア体制作りの研究と検討。

【具体的な取組】

一年目の今年度は、PTA代表・学校評議員・地域会館館長・地域老人会代表そして学校代表で構成する推進委員会を組織し、年四回の計画で

①学校運営協議会のあり方
②お互いの要望等を共有する場の設定や体制づくり
③先進校から体制づくりを学ぶ
について、協議をしています。

当初の推進委員会では、「学校運営協議会？」「コミュニティ・

スクール？」と初めて耳にする委員さんには戸惑いがあったものの、教育委員会からの説明や情報交流などを受けて、「尾鷲にあったコミュニティ・スクールをめざす」ことを確認しました。

コミュニティ・スクールの具体的なイメージが大きく膨らんだのは先進校視察からです。

○東京、三鷹市の三鷹の森学園コミュニティ・スクール委員会(高山小学校学校運営協議会)の実

際の場合に同席させてもらいました。「百聞は一見にしかず」次のことを学びました。

①学校の応援団として、学校からの課題や要請について協議し解決に向けた取組をおこなう。

②同じ目的意識をもった人と協働する。

③部会の下部組織は、必要に応じて作るが無理はしない。できるものから作る。

- ・学習ボランティア
- ・放課後クラブなど

特に、学校からの課題への対応や学習ボランティアの活動などは、研究課題に直結しており、課題共有の設定や体制づくりのモデルにしようと思います。

二年目となる平成二十六年度は、

①学校のニーズに合わせた地域

資源(ひと・もの・こと)の整理と活用方法の検討。

②学校運営協議会設立に向けた協議と準備。

に取り組む予定ですが、来年度からは運動会は春開催になるため、学校支援という形で運動会練習への支援を試みてみたいと思います。地域への貢献活動も忘れてはいけません。地域から学んだことは地域に還元することも視野に入れておきたいところです。

コミュニティ・スクールへの取組は、地域に開かれ地域に密着した学校づくりです。子どもたちは、地域の色々な人とかかわりを通して、自尊感情を育み、コミュニケーション力、人間関係の構築力なども学んでいきます。

まだ未知の部分はたくさんありますが、試行錯誤は当然のこととして、開設に向け一歩一歩進めていこうと思います。

開校から閉校

そして開校へ

南伊勢町立南島西中学校

校長 大野 好彦



本校は昭和五十七年四月、旧南島町立吉津中学校と島津中学校が統合し開校した。吉津中学校に勤務していた私は、二十七歳で新しい学校への希望を胸に、本校の開校を迎えることとなった。

当時は全国的な学校荒廃の時期であるとともに、町内においては芦原原発誘致に関わる、推進派と反対派が対立している不安定な社会情勢が背景にあった。

四月五日に開校式と始業式を行うため、生徒をクラス別にグラウンドに集合させた。そのグラウンドには工事で使用した針金がまだ落ちていたことを記憶している。

開校までの準備不足のため、職員は荷物の整理等に追われ、生徒を二日間、自宅待機とし入学式を二日間遅らせることとなった。

これが波乱に満ちた本校開校当時の状況である。そして私はその

後、九年間勤務することになる。

新しい学校がスタートしたものの生徒指導上の諸問題に対応する日々が続き、学校教育活動が正常に営めない時期もあった。だが、純朴で明るい生徒が多く、部活動に打ち込み、徐々に結果を残していけるようになっていった。

教頭として十五年ぶりに赴任した平成十八年度には、生徒数が開校時の二百九十七名から百三名に減少していた。そして二回目の統合計画が進められていくことになった。

教頭としての三年間は、保護者や地域との連携を重視し、学校内外の環境整備に取り組んだ。「美しい環境が生徒の豊かな心を育む」という思いからであった。「きれいにしてくれて、ありがとうございます」という生徒の声に感動した。

平成二十四年度に校長として赴任した。閉校までの二年間を任せられた思いであった。

職員に次のことを語った。「閉校と開校という歴史的な瞬間に立ち会えることを意気に感じよ」そしてスローガンとして「南島西中学校の有終の美を飾る」「新しい学校を創ろうとする生徒を育む」を掲げた。

生徒が主体的に活動する学校教育活動を創造するため「今年の卒業式は生徒の司会進行で行う。そ

のために一年かけ生徒を育ててもらいたい」と宣言した。学校教育活動の主体となり活躍した三年生を見て育った下級生が、見事に卒業式を創り上げてくれた。

また人権教育とキャリア教育を融合させた心の教育を研究主題に掲げ、地域を元気にする「キャリアアフォーラム」を立ち上げた。全国へき地研究大会での発表。本校の最後の研究実践を全国の方々に見ていただくことができた。

三十二年前の混乱は絶対に避けなければならぬ。本年度は統合する南島中学校との交流事業を計画的に推進することとした。

遠足、小運動会、職場体験学習等を合同で行ってきた。そして各教科で交流授業を行ってきたことにより、生徒と生徒の相互理解が深まってきた。生徒と生徒、生徒と教師、教師と教師の交流を意図した取組である。

平成二十五年十二月現在、すでに校歌と校章が完成し、スクールバスの運行計画もできている。三学期早々に保護者への開校説明会を経て、閉校へ、そして新しい南島中学校の開校への流れが加速されていくこととなる。

保護者や地域の人々の期待に添うべく、平成二十六年度、新しい南島中学校が円滑にスタートできることを切に願う。



随想

みんな ありがとう!



四日市市立羽津小学校
校長 松原 慎二

これまでの教師生活を振り返った時、最初に思い浮かぶ言葉は、やはり『感謝』しかありません。それは、数々の『出会い』への感謝です。保護者・子ども・地域の皆さん・同僚や先輩、そんな人たちとのたくさんのお会いが、私の未熟な教師生活を支えてくれたことは間違いありません。その中でも、多くの教え子たちへの思いは、今でも私の中で宝物として輝いています。

私が現在勤務している羽津小学校は、二十年近く前に『教諭』として勤務していた学校でもありません。ですから、その当時担任した子どもたちが、今でも時々、動物園へ珍しい動物でも見に来たような顔で、校長室の窓をたたいてくれます。先日、五・六年と担任した女の子が二人、夕方に突然学校を訪問してくれました。三人でいろいろと思い出話をする中で、「あのころは、叱ってばかりで悪かったなあ」と言う私に、「何言ってんの先生、みんな五・六年で松原先生に担任してもらったときが、一番楽しかったって言うてるよ」と・・・もう、この話だけでも十分なのに、『教師生活で嬉しかった話』を書き出したら、本が軽く一冊書けてしまうくらいあるのではないかと思います。

たぐさんの思い出や繋がりのおかげで、それぞれが、大切な一ピースとして、私の教師生活という『シグソープパズル』を作り上げてくれていたのだと思うと、『ありがとう』という感謝の言葉しか思いつかないのも当然です。

退職へのカウントダウンが始まり、今一番の楽しみは、かつて私が初任者として赴任した木曾岬小学校の卒業生たちが、「先生、退職したらみんなで退職祝いしてあげるね」と言ってくれていることです。三十年以上も交流が続き、今では四十歳を過ぎた教え子たちが集まってくれたその場で、優勝した楽天の『マー君』のように、『みんな、ありがとう!』と、精一杯の気持ちを伝えようと思っっているのです。

美杉で始まり 美杉で終わる



津市立美杉中学校
校長 松野 吉富

私が新採用で勤務したのが、今勤めている美杉中学校である。昭和五十一年四月、美杉村の七中学校が統合され、一つの中学校として開校し、当時の生徒数は五二四名、教職員数も四一名の規模校であった。当時は、生徒との年齢差を感じず、保健体育科の授業や陸上競技部の活動で生徒と共に汗を流す日々が続いた。また、若い教員も多かったこともあり、教員生活の原点として多くの事を学ぶ五年間となった。

最近、元南アフリカ大統領マンデラさんの訃報のニュースが飛び込んできた。県教委に在職中、前三重県事に同行し、アフリカのナミビアで開催された国際体操連盟の会議に出席し、世界新体操選手権の誘致を決めた。その後南アフリカに入り、アパルトヘイト撤廃まで隔離されていた黒人居住区を訪れた。トタンで囲った住居で暮らしている子どもたちの輝く瞳に触れ、その時感じた人種差別への強い怒りが蘇ってきた。行政在職中の貴重な体験は、自己の視野を広げるものとなり、その後の管理職の仕事にも、大いに役立つこととなった。

三年前に、何の縁か校長として再度本校に赴任し教職生活最後の三年間を過ごすこととなった。が、生徒数の激減の現状に、まず驚いた。本年度の生徒数は六十名にまで減り、ここ三十年余りの間に四〇〇名以上減ったことになる。過疎化・少子化の波は、美杉町には大波となって押し寄せているのを実感した。昔と何も変わっていない自然や人情を生かした少人数教育の推進が、校長としての使命であると感じた。美杉地域の自然豊かな癒し空間で、子どもたちの個性を最大限伸ばすという目標を立てた。その実現のため、小中一貫教育や小規模特認校制度の導入を手がかりに、美杉地域の人々と連携し「少人数の良さを活かした教育」「美杉地域の良さや協力を生かせる教育」を推進している。





特別寄稿 小中学校と博物館との連携

県立総合博物館

館長 布谷知夫



博物館は、生涯学習施設であり、すべての人々を対象として活動をしています。でもその中で最も大切な利用者は小中学校の生徒であると思っています。学校は知識や集団生活の中での社会性、個性の確立の必要性などを子どもたちに伝え、市民になる準備をして世の中に送り出すことが目的だと思います。それに対して博物館の教育は、個人に対して生涯を通して豊かな人生を送ることができるように、特定の分野などについて興味を伸ばし、達成感を得ることを目指しています。それには子どものうちが大切だと思うのです。

そういう意味で大きな目的は異なりますが、両者の得意な分野を生かして、子どもたちの成長にとって効果的な連携体制をとることができ

と考えています。博物館には三重県についての実物の資料や情報と展示、そして分野ごとの専門の研究者である学芸員がいます。三重県について学ぶことを通して、自分が暮らしている地域の自然や歴史・文化に誇りを持ち、興味を伸ばしていくことができます。そういう博物館の資源を使って、学校の教育の中でも生かしていただきたいと思っています。

新しい県立博物館は、「三重県総合博物館(Mie Mu)」と名称を変えてこの四月十九日にオープンします。学校から外に出るのは難しいことが多いことは承知しているので、ぜひ校外学習や社会見学として、博物館に来てください。学芸員がお迎えして、必要なレクチャーや資料の提示などをして、展示を見ていただくことで、その学年の力りキュラムにあった必要な学習ができるはずで、また打ち合わせをして必要であれば、学芸員が学校に向いて授業をすることもできます。

それ以外でも子どもたちからの日常的な疑問に答え、また先生の授業研究のお手伝いや研修なども行うことができます。せっかくできる新しい博物館ですから、ぜひ使っていたきたいと思います。電話を頂ければ、様々な相談に応じることができ

事務局だより

26年度年間行事予定

総 会 等	退職校長感謝の集い 4/12 郡市会長会議 5/13 2/17	定期総会 4/24	全 連 小	総会 5/23 埼玉大会 10/23・24
代 表 者 会	4/17 5/15 6/17 9/11 11/18 1/15 2/24		全 日 中	総会 5/21・22 北海道大会 10/9・10
専 門 委 員 会	学 校 経 営 5/15 6/17 7/17 8/22 9/16 11/18 進 路 指 導 5/20 6/5 7/15 9/18 10/21 11/13 生 徒 指 導 5/15 6/17 8/21 10/28 11/18 広 報 特 別 4/17 6/17 9/11 11/18 1/27 2/24 5/15 6/17 9 /11 11/18		東 陸 連 小 東 陸 中	富山大会 10/16・17 三重大会 7/3・4
小 学 校 部 会	研 究 大 会 8/7 代 表 者 会 4/17 9/11 1/15 2/24 研 究 委 員 会 5/29 6/19 7/24 9/9 編 集 委 員 会 5/22 6/24 7/15 9/9 10/2 11/11			
中 学 校 部 会	研 究 大 会 東陸中三重大会 7/3・4 代 表 者 会 4/17 9/11 1/15 2/24 研 究 委 員 会 5/1 5/27 6/24 10/2 11/20			
東 陸 中 三 重 大 会	実 行 委 員 会 5/13 6/26 7/10 事 務 局 会 4/10 5/8 6/10 7/10 6 部 会 各部会別開催			

★お願い

- 平成 26 年度年間行事予定を考慮し、各種会議のご計画をいただきますようお願いいたします。
 - 平成 25 年度理事さんを通じて、2 月 27 日 (木) 代表者会にて下記の提出物をお願いしています。締め切りにご協力をお願いします。
 - ① 郡市役員・委員等の名前報告 (4 / 7)
 - ② 総会代議員出席者名簿 (4 / 11)
 - ③ 三重県小中学校長年齢別表 (4 / 17)
- ※報告につきましては、平成 26 年度理事さんでお願いします。

本部役員だより

一年を振り返って思うこと



三重県小中学校校長会
中学校部会長 下村 純也

係機関や関係団体との連携、会員相互の連携のもとで、小学校と中学校でとりくむ必要があるとの認識に立ち、県教育委員会をはじめ県内の教育関係団体との話し合いを進め、現場の校長の意見や要望を伝えて、喫緊の教育課題を真摯に議論し、今日に至っています。

平成二十五年度は、伊勢の地で二十一年に一度という式年遷宮があり、三重県が全国から注目された年でした。三重県小中学校長会も、昭和二十七年以来六十年ぶりに「第六十五回全国連合小学校長会研究協議会三重大会」を三重県で開催しました。開催にあたり、県内各地の校長先生方のご支援やご協力のおかげで、大会を成功裏に終了することができました。誠にありがとうございました。この大会を通じて、教育実践の深化や組織力の向上、そして諸活動の活性化をより一層進めることができました。今後も真摯な研究と実践を積み重ね、本県教育の振興を図り、県民の信託に応えていかなければならないと考えます。

さて、三重県の教育界において

も、大きな変革の年でした。学校

週五日制の見直しに伴う「土曜授業」の検討や、全国学力・学習状況調査の検証に基づく「みえの学力向上県民運動」の推進など、学校や家庭、地域がより強く結びつき、子どもたちに豊かな心や健全な身体を育み、確かな学力の向上をめざす等、生きる力の育成が強く求められました。

そのためには、教師が自信と誇りをもち、子どもとしっかり向き合える、落ち着いた学習環境で授業ができるとともに、校長は確かな教育理念とビジョンを持ち、先見性と創造性のある豊かなリーダーシップを発揮して、各学校の具体的な課題を解決できるようにすることが大切であると考えます。

私たち三重県小中学校長会は、関

この間、校長会に組織された理事会や役員会、専門委員会や各部署等では、活動の活性化が図られ、着実に成果が積み上げられてきました。また、学力向上や教育の充実発展に関する施策・予算について県教育長との懇談会、よりよい進路指導を求めて入試制度の見直しを、県教育委員会や県PTA連絡協議会へ働きかけを行いました。

平成二十六年度には「第五十四回東海北陸中学校長研究協議会三重大会」が開催されます。大会の開催にあたり、すでに平成二十五年度より大会実行委員会や専門部会を組織して準備を進めていまして、今後も引き続き、県校長会の総力を結集して取り組んでいかなければなりません。

会員の皆さんには、これからも、三重県小中学校長の諸活動に、ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

私の薦める一冊

本との出会いで
人生は輝き出す

松阪市立大江中学校
校長 水野 宏美

今年はいつものにも増してすがすがしい気持ちで、新たな希望をもち新年を迎えることができた。それには年末に読んだ一冊の本との出会いがある。

その一冊とは、『手紙屋』(僕の就職活動を変えた十通の手紙)(喜多川泰著)である。就職活動が思うように進まず悩んでいる主人公が「手紙屋」との十通の手紙のやりとりを通して就職活動についてだけでなく、人生に対しての考え方が変わり、新たな人生の目標をもつて動き出すというストーリーである。単なる自己啓発本ではなく、小説化されているため言葉がすんなり心に入ってくる。

この年齢にある私ではあるが、「手紙屋」からの手紙をあたかも自分へ宛てられた手紙のような感覚におちいりながら読み進め

た。「手紙屋」は、働くことの意味、人生の意味などを、これまで私自身が持っていなかった視点から説いてくれた。「人は夢や目標を持つと、目の前には必ず壁が現れます。その夢さえもたなければ壁と感ずることなく生きていられることが、いくつも自分の前に現れるんです。とりわけ大きな夢を描く人には大きな壁が現れます」『失敗した人は才能を理由に挙げる。成功した人は情熱を理由に挙げる』あなたの夢を叶えるために、才能は必要ありません。ただ必要なのは、それをやりたいという『情熱』だけです」等々、心に染み入る言葉が散りばめられている。『教師になりたい』と思った初心に戻り、この仕事に情熱を注ぎたい』そんな気持ちに素直にさせてくれた。

「手紙屋」には、もう一冊「蛍雪編」私の受験勉強を変えた十通の手紙がある。受験生である主人公への手紙を通して、勉強する意味、その面白さを教えてくれる。自分が学生の頃この本に出会っていたらと思う一冊であり、この「手紙屋」二冊は子どもたちにもぜひ薦めたい。子どもたちの人生を変える出会いになるかもしれない。素晴らしい本との出会いは人生を輝かしいものに変えてくれる。

あの時、あの人



「いっぱいお世話になりました」

紀宝町立神内小学校

校長 室 谷 隆 子

「ありがとうございます」と、伝えたい人がいっぱいいます。

まずは、中学校時代の恩師。英語の先生で、いつもきれいなスーツを着て、ピンクのカブでさっそうと現れ、きびきびした態度で授業をテンポよくすすめていく、あのころの先生でした。私の理想の教師像が、ここにあるような気がします。なんと、松阪で、出会ったのに、今は、同じ熊野に住んでみえます。「縁」ってあるのですね。これからもよろしく願います。

そして、残念ながら、この世を去られた三人の方。

一人は、大先輩の元校長先生。書道を習いにおじやましています。た。というより、「愚痴？」を聞

いてもらいに通っていました。「そりや大変やなあ」と、いつも否定することなく、聞いては相槌を打ってくださっていました。上手くない字でも、「すばらしい！なんか魅力ある。」といつもほめてくださいました。一緒に通っていました。

もう一人は、十六年前に勤務した学校の校長先生でした。剣道の達人で、ちよつとこわもて、「泣く子も黙る〇〇」という雰囲気醸し出してみえましたが、陸上大会の後の打ち上げの時「ご苦労やったな。練習始まると子どもら

と一緒にグラウンドに出て、終わるまで、草引きしとったやろ。自分のできることをしっかりやっとしてくれたのー。ありがとう」思わず涙が落ちました。「陸上の練習といっても走るのも、跳ぶのも教えられへんな」と落ち込んでいた私に、かけてくださった言葉でした。

もう一人は、同志。「子どもら最高！」と同じことで喜んだり、「おかしいやろ！」と腹を立てたり、職場に同じような感性の人がいて安心でした。

本当にたくさんのおかけで、なんとか過ごすことができました。ありがとうございます。「恩送り」ということばがありますが、次の人に、送れば・・・そう思っています。



チェロとの出会い

鈴鹿市立白鳥中学校

校長 中 道 公 子

今や私にとってライフワークともいえるチェロの演奏活動であるが、チェロとの出会いは小学校三年生の時であった。

昭和四十三年、鈴鹿市に初の本格的なホールが完成し、それを記念して、鈴鹿市民会館では連日のように有名な演奏家やオーケストラの演奏会が開かれていた。私は音楽好きの両親に連れられ、時には睡魔と闘いながらも、演奏会特有の華やかな雰囲気と音楽の心地

よさを楽しんだ。

そんなある日、今は亡き伝説のチェリスト、ポール・トルトゥリエが鈴鹿市民会館にやって来た。当時の私は彼がそれほど有名なチェリストとは知らず、いつものようにピクニック気分で座席に着いた。広いステージの真ん中にただ一人チェロを構える彼の姿を目にし、温かくも哀愁を帯びたチェロの音色を聴き、大げさではなく全身がぞくぞくした。演奏会はあ

あつという間に終わり、アンコール曲「白鳥」の消えゆく音を惜しみながら、もつとずっと聴いていたいと思ったこと、いつかは必ず自分もチェロを弾くと心に決めたことなど、四十五年も前のことから今も鮮明に覚えている。

その後チェロに触れる機会もなまま音大に進んだ私は、大学のオーケストラに入部し、ようやく念願のチェロを弾くことができました。以来、専攻のピアノよりもチェロの方に多くの時間とエネルギーを費やすこととなった。車の助手席の占有率は誰よりもチェロが圧倒的に高く、インフルエンザでふらふらの時もステージに立つなど、チェロは私の生活そのものとなった。あの時、鈴鹿市民会館ができていなかったら、あの時ポール・トルトゥリエが鈴鹿に来ていなかったら、あの時両親に連れられ演奏会に行かなかったら、チェロとの出会いはなかったかもしれない。

私のエネルギーの源でもあり、自分が自分らしくいられる「チェロ」との出会いに感謝しつつ、私も誰かの心に灯をともしせるような仕事がしたいと思う今日この頃である。

地区校長会だより

紀北町小中学校長会

平成十六年七月に熊野古道が世界遺産に登録されました。その翌年の平成十七年には、北牟婁郡紀伊長島町と北牟婁郡海山町が合併し、新しく紀北町が誕生しました。紀北町は、ツツラト峠・始神峠・馬越峠の古道三峠と、雄大な太平洋に囲まれた風光明媚な地域であります。

紀北町校長会は、小学校十一校（東・西・志子・赤羽・海野・三浦・上里・船津・矢口・引本・相賀）、中学校四校（紀北・赤羽・三船・潮南）の十五校で組織し、児童生徒約千二百名を預かっています。

町校長会の活動は、月一回の小中学校長会（教育委員会主催）と、その後行う自主校長会があります。この会では、各種会議の報告や各校の情報交換などを行っています。共通認識を図る場として、小学校と中学校の連携を密にする場として、欠かすことのできない会となっています。

また、隣の尾鷲市校長会（九校）

と合同で紀北校長会を組織し、人事給与部・経営管理部・研修部を軸に活動を行っています。もう一つは、紀北小学校長会・紀北中学校長会を結成し、それぞれの校種で研修や情報交換を行っています。

今教育現場では、防災教育をはじめ、学力や・体力向上を目指す教育の推進、生徒指導の問題や教職員の品格等、課題が山積しています。加えて、この地方には、過疎化・児童生徒数の減少等の課題もあります。

紀北町校長会は、地域の実態を捉え、地域に密着した教育を展開すべく、より結束を深め、子ども



たちが、この町で育って良かった、この学校で学べて良かったと感じられる教育を推進すべく頑張っています。

伊勢市中学校長会

特色ある教育活動の充実

伊勢市は、平成十七年に旧伊勢市・二見町・小俣町・御園村が合併し、人口約十三万人の都市で、北は伊勢湾に面し、中央には日本一の清流を誇る宮川や、五十鈴川、勢田川が流れる比較的温暖な気候に恵まれた緑豊かな都市です。

また、歴史と文化に富んだ名所・旧跡も多く、神宮御鎮座の街として親しまれてきました。今年には御遷宮の年でもあり、全国各地から多くの観光客を迎えています。

伊勢市の中学校十二校には、約三千五百名の生徒が学んでおり、その中でも、厚生中ではコミュニティ・スクール、豊浜中では地域産業と連携したバラのアレンジメント、宮川中では京都大学大学院と共同で研究している防災教育等、各中学校では、生徒や地域の実情に応じた特色ある教育活動の充実を図っているところです。

校長会の委員会等としては、それぞれの要望を集約し市教委

と教育予算の折衝を行う「予算対策委員会」

■連合行事の実施及び教育課程の編成・実施に関する検討を行う「教育課程委員会」

■外部から講師を招き、学校経営や人材育成などに関する校長研修会を企画・運営する「研修委員会」

■市内の私立中学校や近隣他町の中学校、伊勢警察署、青少年相談センター及び市教委との連携強化を図る「生徒指導協議会」

■校長会の福利厚生部門を担当する「G友の会」

伊勢市中学校長会は、加藤泰彦会長を中心とした和やかな雰囲気ですが、暴虎馮河の校長がそろった真剣に中学校教育を語り合う校長会です。



編集後記

教室の窓から射す日光の束も、日ごとに力強さを増して参りました。春は、もうそこまできてきております。校長先生方におかれましては、卒業式の準備や今年度のまとめ、新年度体制の確立等にお忙しい毎日をお送りのことと存じます。

今年度十月には「全連小三重大会」を大成功の元に終えることができました。また、来年度の「東陸中三重大会」に向けて、各部会では、着々とその準備が進められているところです。来年度も、全校長先生方が、総力を結集して、充実発展の年になればと思います。

さて「校長会みえ」も、当初の計画通り、年三回の発行を無事に終えることができました。多忙な職務の中、原稿を執筆していただいた先生方には、心よりお礼申し上げます。心温まる記事に思わず微笑んだり、いろいろな記事から、多くのことを学びました。なにより、毎号の記事を読む中で、校長会の連帯感を強く感じました。来年度も、皆様にとって役立つ会報となるよう、紙面の充実を図っていきたいと思います。